

## しゅどうしき 手動式バリカン(片手用バネ式)

バリカンといえば、<sup>とうはつ</sup>頭髪を刈り込んだ<sup>ぼうすあたま</sup>「坊主頭」の丸刈りスタイルに欠かせない道具です。現在では電動コードレスが主流ですが、昭和 30 年代頃までは、手動式のバリカンが活躍していました。上下 2 枚の<sup>くしがた</sup>楕形の刃から成り、取手を握ることで上刃を往復させ、固定された下刃と交差させて<sup>はさ</sup>頭髪を挟み切ります。頭髪の長さは、刃の重ね合せによって、<sup>いちぶ</sup>一分刈り(約 3 mm)や<sup>ごぶ</sup>五分刈り(9 mm)などに調整します。刃の切れ味が悪いと、髪<sup>かみ</sup>の毛がひっかかり痛い思いをしました。

「バリカン」は 1874 年(明治 7)に、フランスから両手式のものが最初に輸入され、その後、フランスの片手用バネ式バリカンをモデルに国産化をはかり、1890 年(明治 23)に販売されました。日本での「バリカン」の名称は、フランスの製造会社バリカン・エ・マール(Bariquant et Marre)に由来し、英語ではヘアクリッパー(hair clipper)といいます。日清戦争(1894~95)のころ、<sup>すいしょう</sup>軍隊などの推奨で丸刈りスタイルが定着するのに合わせて広く普及しました。



岡崎むかし館蔵

### 《丸刈り校則》

1980 年頃、岡崎市も含め全国公立中学校の約 3 分の 1 で、男子の「丸刈り指導」が行われていました。それに対し、1980 年代後半に「丸刈り校則自由化運動」が広まります。現在では全国で頭髪自由化が実現しています。

- 参考文献 『日本大百科全書』小学館、1986 年 朝日新聞 2015 年 3 月 7 日、夕刊 5p、東京本社「あのときそれから」沢田歩  
 『資料集 愛知県岡崎市の丸刈り、おかつば強制反対市民運動』中学生の頭髪の自由化を求める市民の集い、1988 年  
 『資料集 続 愛知県岡崎市の丸刈り、おかつば強制反対市民運動の記録』中学生の頭髪の自由化を求める市民の集い、1991 年